
スノー・ボール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スノー・ボール

【Nコード】

N4843D

【作者名】

【あらすじ】

米米クラブの名ラブソングを小説っぽくしてみました。言い訳はしません。

灰色の雲から白い雪がゆっくりと降りてくる。

すっかり白くなってしまった街を、私とジョージは並んで歩いている。

「雪だネー」

ジョージがコートと帽子の隙間から彫りの深い顔を覗かせながら、まだまだ上達の余地がある日本語で呟いた。

「寒いね」

私は彼の横顔を見ながら答えた。ジョージはまるで子供のように青い目を輝かせて周りを見回している。

「Snow Fightしようヨ」

突然ジョージは通りかかった小さな公園に入っていくと、足元の雪をかき集めて玉を作り始めた。

「全く子供なんだから」

ため息をついて、私も公園の中に足を踏み入れる。以前の私なら人目を気にして、街中で雪合戦をしようなんてきつと思わなかった。しゃがんで足元の雪をかき集めて雪玉を作る。私はジョージと出会ったおかげで変わる事ができた。

雪玉を両手に持って立ち上がると、私の顔にやや固めの雪玉がヒツトした。

「アハハハ、遅いヨ」

ジョージは笑いながら雪玉を投げつつける。私も手に持った雪玉をジョージに向かって投げる。

大げさな動きで雪玉をかわし、笑いながら手に持った物を投げる。ジョージは外人という事で偏見を受けたりするけど、いつも楽しそうだ。

そして周りの人も巻き込んでいく。引っ込み思案だった私を引っぱり、人目もはばからず雪合戦をさせるまでにしてしまった。

「Ouch!」

ジョージの顔に雪玉が次々とヒットする。力ではかなわないけど、すばしっこさと体の小ささでは私の方が上だ。

しばらくジョージに雪玉を命中させていると、一方的な展開に切れたのか、ジョージは叫び声を上げながら下にある雪を両手でいっぱい抱えてこちらに突進してきた。

「うわっ」

意表をつかれてよけきれずにぶつかる。二人雪まみれになりながら白い絨毯の上に倒れこんだ。

倒れた私とジョージの頬と頬が触れ合っている。なんだかとても幸せな気持ちになる。

ジョージが少し体を離して、私を上から見下ろした。この笑顔が私を変えたんだ。

「夜には愛のタマをぶつけ合おうヨ、シヨーチ」

「……そういう親父ギャグさえなければなあ」

僕達二人にヒニンはいらぬ

男と男さ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4843d/>

スノー・ボール

2010年10月11日01時06分発行